



コイゴコロ

ミルクティー

アイシテル

決定的なことがないから期待してしまうの
自分でもバカだって分かってるのよ
でも、どうしようもないの
どうしようもなく彼が好きなの
ほんとおかしいでしょ、笑ってよ

あなたは笑わないのね
受け止めて一生懸命こたえてくれる
そういうところ大好きよ
でもね、時々だけど心が痛いの
あなたがそんなことないって笑うけど……

あなたのことまだ彼より好きになれなくて
ごめんね
本当にごめんね

君の背中

君の背中は優しさをかたる
ふとした優しさが少し悲しい

わたしの背中は寂しさをかたる
何もないのをあるふりをしているのが悲しい

一瞬合わさる視線がこわくて
一瞬合わさる視線が嬉しい

人と違うことがこわくて
違ってばかりいる自分が悲しい

寂しさと悲しさは隠せない
気持ちを伝えるほどの勇気もない
それでも君には笑っていてほしい

さくらの午後

さくらひらひら
あたたかい風
さし込む光のスジ
ほんのりと春めいた午後

ほんの一瞬だけ
タイムスリップ
優しい笑顔と声がある
あの日あの時
思い出は瞬間保存されていて
いつでもよみがえる

あなたは変わらない
わたしも変わらない
いつか誰かの優しさに助けられて
きっと時がまた流れはじめるでしょう
その時まで

小さな願い

待ち遠しくて
いつ会えるのだろう
そればかりを思って

私とあなたをつなぐこの距離は
近くて遠い
理解しているからこそ
こころはせつない

少しでもいいからと
願うわたしは
ダメなのでしょうか

こころ迷子

何気ない一言がココロにしみて
どきっとさせられる
ねえ、どういう気持ちで言ったの
おもわず考えちゃうよ

こころにあるのは
ほんのちょっとした期待と
優しさなのかもしれないとうまく不安

ひょうひょうとしているのはあなただけ
あなたの口から出た言葉だよ
言葉を耳にしたわたしは
ああ、こころ迷子

コイゴコロ

視線の先に君がいるのに
どうすることもできない
この気持ちのもどかしさ
どこに逃がせばいいの

あまりに自由な君は
思うが仮に歩いていく
見つめるだけを許される私に
何ができるというの

優しさでできた君に
届きそうで届かない
淡いこの気持ちの名前は
きっとコイゴコロ

そばにいさせて

泣いているあなたを見て
こころが痛んだ
その思いを減らしたい
哀しみをわけてください
わたしにあなたを救う力をください

時がながれ
恋心は愛になる

哀しみはやがて小さな海となって
時々あなたを苦しめるでしょう
そんなとき
わたしがそばにいてもいいですか
あなたが笑ってられるように

小さな恋物語

ずっと昔から知っているような
なつかしいような
不思議な気持ちにさせる
あなたという存在

あなたがそばにいと
まるで陽だまりの中のように
わたしは幸せになるの

ふと目があう
そのまま時間よ止まれ
これからはじまる
小さな恋物語

コイゴコロ

<http://p.booklog.jp/book/50673>

著者：ミルクティー

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ishity/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/50673>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/50673>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.